

社 会 科

山 岸 郁 生
寺 岸 和 光
笹 山 明 夫

1 社会科の授業における集団で学ぶよさ

社会科の授業における集団で学ぶよさを私たちは次のように考えている。

人の営みの中にある思いや考えを
たどることができること

私たちは、社会科の本質を「社会の一員としての自覚を持つこと」ととらえている。私たちの身の回りには家族、地域、国家などの社会集団があり、それらは、何らかの目的や意思を持った人によって構成されている。すなわち「社会の一員としての自覚を持つこと」とは、社会集団を構成する人の意思に触れ、それを理解し、帰属意識を持つことを意味している。この本質を学ぶための社会科の学びとは、身の回りにある様々な事象を通して、人の営みの意味や働きをとらえていくことである。その際、集団で学ぶという相互作用が人の営みにある思いや考えをより深めることになる。つまり、より広い視野や多様な視点で見ることによって、結果的に子どもがその思いや考えに寄り添うことができるということが社会科の授業での集団で学ぶよさと考える。

このような集団で学ぶよさを生かした学習が、一人一人の社会的なものの見方・考え方を身につけていくことを可能にする。

集団で学ぶよさを生かした学習を展開するためには、まず、身の回りにある事象が自分のくらしとかかわっていることを一人一人に気づかせることが大切である。例えば、学校のそばを流れている用水は、今も農業用水や防火用水、排雪溝として私たちのくらしを支えている。普段何気なく目にしていたものが、実は自分のくらしとかかわっていることに気づくことによって、子どもに驚きや感動が生まれる。それが「いつ、だれが、どのようにしてつくったのかを調べてみたい」という追求意欲につながっていくのである。

そして、事象に内在する人の営みの意味や働きを調べ、自分のくらしとのかかわりでとらえることも大切である。例えば、用水には、新田を開発したいという当時の人々の願い、計画の工夫、工事に携わった人々の並々ならぬ苦勞、今も用水を守り続けている人の努力などの人の

営みがある。その意味や働きを問題意識と予想を持って調べたり、今の自分のくらしと比べたり、今後の自分のくらしとのつながりを考えたりすることによって、自分なりの事象に対する見方・考え方を持つことができるのである。

しかし、それはあくまでも自分なりの見方・考え方であり、狭い視野によるものである場合も少なくない。そこで、互いの考えを交流し合うことで、自分にはない見方・考え方に気づくことができる。その結果、より広い視野や、多様な視点で事象をとらえ、よりよい見方・考え方を身につけていくことができるようになると考える。そのことが社会の一員としての自覚を持つことにつながるのである。

このように集団で学ぶよさを生かし、人の営みにある思いや考えをたどることを通して、一人一人が社会的なものの見方・考え方を身につけていくことが社会科の学びである。

2 集団で学ぶよさが息づく

授業へのアプローチ

「集団で学ぶよさ」を生かした社会科における学びのシェアのプロセス、学びを支える規範、評価活動について述べる。

(1) 社会科における学びのシェアのプロセス

学びのシェアのプロセスを社会科という問題解決的な学習過程との関係で示すと次の表のようになる。

学びの シェア	共有	洞察	共鳴 (共感)	調整	適応
社会科 の問題 解決的 学習	事象 との 出会い	問題 発見	予想 調べ 活動	考えの交流 考えの再構築	新たな事 象への働 きかけ

事象との出会いにおいては、まず、子ども一人一人が、自分のくらしとのかかわりに気づくことができるような素材を学習材として取り上げる。子どもにとって身近に感じられるもの、追求することで人の営みが見えてくるもの、その人の営みと自分のくらしとのかかわりがあるものなどである。その上で事象に意欲的に働きかけることができるように、単元導入時において、事象との出会いの場を工夫する。驚きや感動、意外性のあるグラフや写真、年表などの資料や実物を提示することにより、問題意識や目的意識を持たせることができると考える。

そして、一人一人の問題意識を出し合う中で共通点を探り、課題を絞っていく。これは集団としての課題の共有を図ることである。このことは、一人一人の問題意識を集団に広げるとともに、問題意識を追求意欲に発展させるためのものでもある。

調べ学習にあたっては、子どもの多様な思いや願いに応えるために複線的な流れを意図的に組んでいく。そうすることで、一人一人、あるいは小集団が興味・関心を持つ事象や課題や学習方法などを選択でき、より主体的な学習につながるであろう。また、問題意識を高めたり、自分の考えを明確にしたりするために、単元の中に体験的な活動の場を取り入れることも大切である。中には、思いはあっても追求方法や表現方法がつかめずに立ち止まってしまう子もいるだろう。そのような場合も想定しながら、自分の学習状況をふり返る場を集団の中で設定していく。その際には、発言だけでなく、つぶやきやノートに書かれた言葉、調べ活動における様子などから思いや考えを教師が肯定的に受け止め、意図的に取り上げることも効果的である。ときには中間発表で問題点などを出し合い、アドバイスし合う場を設けていく。

社会的なものの見方・考え方を深めていくためには、他の見方・考え方を相互交流する場の設定が必要になる。例えば、考えを発表し合う場、ディベートや討論の場、ワークショップやポスターセッションの場などが考えられる。これらは、集団で学ぶよさが特に強く発揮される大切な場となる。ここでは、調べた結果を相手にわかりやすく伝えることはもちろんのこと、自分がどのようにして課題に迫ろうとしたかという調べ方やそのふり返り、調べた結果から考えたことなどを、発表する内容に位置づけるように指導しておくことが大切である。なぜなら、意見交流に至るまでの一人一人の学習過程を明確にすることによって、お互いの見方・考え方のよさを明らかにすることができると考えるからである。相互交流を通して得た多様な意見や学習方法を生かして、一人一人の考えの再構築を促していきたい。また、教師が子どもの見方・考え方を揺さぶるような発問をしたり、新たな事実を示す資料を提示したりすることも効果的である。学習材によっては、様々な人の立場に立って考えるようにしたりすることも見方・考え方を深め、考えの再構築を促す手だてとなる。

こうした問題解決的学習の過程を経ることで、人の営みにある思いや考えをたどることができるだろう。その結果身につけた「社会的

なものの見方・考え方」を生かして、子どもはさらに新たな事象へと関心を広げていく。そして、いずれ将来にわたっても、様々な社会の中で、自分たちの暮らしをよりよいものにするために自ら考え、行動していく力を育むことでもある。このことは、社会科の本質である「社会の一員としての自覚を持つこと」につながっていくと考える。

(2) 社会科の学びを高める規範について

社会科における学びを高めるために作用する規範を次のように考える。

1つめは、「事実認識」である。これは、問題意識や、自分の考えの根拠を持つために、自分なりに事実をとらえることである。

2つめは、「多面的認識」である。事象を多様な視点や広い視野で見つめ、とらえることである。

3つめは、「関連づけ」である。他の見方・考え方を自分のものと比べたり、結びつけたりしながらとらえることである。

4つ目は、「価値認識」である。様々な調べ方や見方・考え方のよさに気づくことである。

5つ目は、「再構築」である。自分とは異なる見方・考え方のよさを取り入れ、自分の見方・考え方を見直していくことである。

こうした規範は、一連の問題解決的学習過程を通して育まれるものであり、学習活動のポイントごとにその意義や有効性を自覚できるよう促していきたいと考える。

(3) 評価について

まず、自分の見方・考え方を自覚するために、事象に対する予想や仮説を明記させた後、学習のめあてや計画などを書くことを促す。そして追求過程のポイントごとに、自分の考えや行動、追求方法のふり返りをノートやカードなどに書き留めるようにする。言葉や図、イラストで表したものを通して見方・考え方を自覚することができるようにしたい。また、その際には、だれのどのような意見で自分の考えが変わったり、よさに気づいたりしたかについても書くように促していきたい。

さらに、相互交流の場で他の意見を認める発言をする子どもの姿を認めていく。そして、座席表や学級通信などを通して学習の様子やふりかえりを教師が紹介することによって、子どもが他の調べ方や見方・考え方のよさに気づくことができるようにしたい。

このような評価活動を積み重ねることを通して、「集団で学ぶよさ」を自覚するとともに、さらなる学びの意欲へとつなげるようにしたいと考えている。

3 実践例 ー 3 年ー

4月に子ども達と出会って、まず感じたのは自分の考えをしっかりと話すことができる子が多いということである。しかし、まだ3年生ということもあり、お互いの考えを認め合ったり、自分の考えに友だちの考えを取り入れたりすることは、ほとんど見られなかった。そこには友だちの考えを聞くことがなぜ大切なのかという意味づけの弱さがあった。そこで、友だちの意見や考えを聞き合うことを通して、社会科でいう「思いや考えをたどる」、すなわち集団で学ぶよさにつながるような授業を考え実践することにした。

(1) 小単元名 ONE PIECE 物語Ⅱ ～学校の周りと3つの町～

- (2) 目 標
- ・学校の周りを探検し、特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設の場所、交通の様子を地図にまとめることを通して、自分なりの思いを持つことができる。
 - ・学校の周りを調べることを通して、自分の学校がある地域に対して関心を持つことができる。

(3) 社会科としての学びと教室の規範にかかわって

本校の周りには、大きく分けると平和町、長坂、野田町の三つの町がある。平和町は、学校のある町で住宅団地や商店街がある。そのため公園が多い。長坂は、古くからの家や畑と新しい住宅が混在している。また、外回り環状線も通っている。野田町は、野田山の北側斜面であり、自衛隊が大きな存在である。また、外回り環状線の野田山トンネルの工事が始まり、墓地などが移転したりしており、激しく変化している。この単元は社会科の最初となる単元である。子ども達はこの三つの町についての学習で、実際に調べたり、考えたりする方法を学んでいく。また、身近かであるがゆえに人の営みを学習しやすい。さらに、この学習から子どもそれぞれが住んでいる地域社会へと興味・関心を広げていくことができるという発展的な意味も持っている。

子ども達は、社会科の学習をまだ数時間しか経験していない。そのため、自分たちが生活している地域にどんなものがあるのかということには関心を持つことはできるが、すぐに調べてみたいという強い意欲を持つには至っていない。しかし、生活科の学習をもとにして、探検バックや鉛筆など探検に必要なものや、グループに分かれて調べる方法やメモしたことを合わせて一つのものを作る方法といった知識は十分に身につけていると思われる。しかし、実際にできるかどうか点ではまだ不安が残る。

そこで、本単元では調べ方を身につけるために目的が違う探検を3回取り入れたい。1回目は地域をまず大まかに見る探検で、子ども達がもっとくわしく探検したいという意欲をもつためのものである。次は実際に詳しく見るための探検である。この探検で子ども達は十分に満足し、調べたことをまとめる次の地図づくりにつなげたい。最後の探検で地域のことがしっかりと分かった上で、自分たちが分かったことをふり返る意味を持っている。これは次の学習への意欲をもつための探検でもある。また、地図づくりをする際に、一人が一つの小さな部分を担当する。それは自分に与えられた部分について責任を持って調べることを通して、集団で学ぶ良さを知るだけでなく、地域をより身近かに感じるためである。これらのことを通して、さらに自分の住んでいる地域にも目を向け、進んで地域のために考え、地域に働きかけ、地域を発信する態度にまで高めていくことができたかと考えている。

(4) 集団のよさが息づく授業へのアプローチ

① 「学びのシェア」とのかかわりから

まず、出会いの場面では学校の周りの様子について知っているようで実は知らなかった自分に気づかせたい。そこから、学校の周りについて知りたい、調べたいという問題意識に高めていきたい。そして、その様子について予想したり、調べる方法について考えたりし、実際に調べる活動を行いたい。その時には、個人やグループに分かれて調べることにする。それは、調べたことを一つのものにまとめ上げていくことが、集団で学ぶよさを気づかせていくためである。その上で、地域に対する思いを交流させたい。そこでは、友だちの立場に立って考えるだけでなく、地域の人の立場にも立って考える場を設定することで、より地域に対する見方・考え方を深めていくことができるからである。そのことも集団で学ぶよさにつながっていくと考える。

② 規範づくりについて

本単元における社会科として大切にしたいことは「地域に気づく」「地域を地図に表す」「地

域に思いをもつ」「思いを新たにする」の四つであると考え。「地域に気づく」ことは、今まで目にはしてきしたが、気をつけて見てこなかったもの、或いは、存在さえ気づかなかったものに気づいていくことである。学校の周りの様子は毎日見ているようで、実際はよく見ていない。どこにどんなものがあつたかを地図に表して確かめることから、そのことに気づかせたい。そこから「高いところから眺めてみたい」「探検してみたい」という追求意欲がわき起こってくると考える。「地域を地図に表す」ことは、地域を自分や既に知っていることと関連づけて考えたり、多面的に考えたりするために必要なことである。地図に表すことで今まで気づかなかったことがさらにはっきりしていくと考えている。「地域に思いをもつ」ことは、地域の価値を認識することである。通学の途中に通る過ぎるだけの地域でなく、住んでいる人とふれあいがあり、周りの様子の変化にも気づくことができることを意味している。そのために、実際の探検では、建物や自然の様子だけでなく、人にも焦点を当てたい。どんな人が住んでいるのか、どんな人が働いているのかなどを見たり、尋ねたりしながら探検することで地域の価値に気づいてくれればと考えている。「思いを新たにする」ことは、それぞれの地域に対する思いを発表し合う中で一人一人の中で価値が再構築されて新しい価値となっていくことである。そのためには、自分の思いと比べながら聞くことが大切になってくる。そして、その新たな思いが広がって、次の市全体の様子

単元計画（総時数 14 時間）

主 な 活 動 と 内 容	主に意識する規範	評価のポイント
1 3年生の社会科の学習について見通しを持つ ・社会科は新しく始める勉強だ ・自分たちの周りのことを勉強していくぞ ・3年生では学校の周りや市の様子を勉強するぞ ・ものだけでなく人も出てくるぞ	(1)	社会科の学習に興味をもち 学校の周りの様子に関心をもつことができる
2 学校の周りの様子について発表する ・まずは学校の周りの様子だ ・どんなものがあつたかな アルコ 自衛隊 市立病院 長坂台小学校 など ・どこにあるのかははっきりとしないよ ・高いところから見たり探検に行けばいいよ	(1)	学校の周りの様子について想起し 探検したいという意欲をもつことができる
3 学校の周りの探検に行く（1回目） ・みんなで探検しよう ・見てきたことを発表しよう アルコや市立病院の場所がわかったよ だいたいわかったよ 細かいところはまだまだわからないよ	(1)(2)	学校の周りの様子について自分の思いをもち さらにくわしく調べようとする意欲をもつことができる
4 もう一回探検に行ってくわしく調べよう（2回目） ・全部まわるのはいへんだよ ・分かれて行って あとで発表し合ったらいいよ A：平和町2丁目コース アルコ 平和町グランド アパートの人 B：平和町3丁目コース 市立病院 バザール アパート 店の人 C：長坂1, 2丁目コース マンション 田 畑 農家の人 D：長坂町野田町コース 田 畑 野田山 お墓 家の人	(1)	学校の周りの様子についてグループに分かれ さらにくわしく探検することができる
5 探検してわかったことを地図にまとめよう ・一人ずつ地図が合わさって 大きな一つの地図になったぞ ・もっと分かりやすくできないかな ・地図記号を使うと分かりやすくなるよ ・地図記号にはどんなものがあるのかな 学校 お寺 神社 郵便局 銀行 墓地	(1)	学校の周りの様子について探検してきたことを大きな地図にまとめることができる
6 学校の周りの様子をまとめよう ・平和町はどんな町？ 長坂はどんな町？ 野田町はどんな町？ ・学校の周りはどんな町といったらいいかな？ ・自分なりにまとめよう ・お互い発表しよう	(2)	学校の周りの様子について大きな地図を見ながら自分なりの思いをもつことができる
7 もう一度学校の周りを確かめよう（3回目） ・行ってみたいところへ行く ・学校の周りはどんな町といったらいいかな？ ・この先にはどんな町が続いているのかな？	(1)(2)	学校の周りの様子をもう一度探検してくることで学習したことをふり返ることができる

教室の規範 (1) 教え合う
(2) 比べて考える

の学習へとつながっていくと考えている。

③ 評価について

学校の周りの様子について、単元のそれぞれの段階で自分なりの思いを書いて残していく活動をしていく。それらを見直すことで自分の思いがどう変化していったかを評価したい。また、その中に自分だけでなく友だちが調べたことがどうかかわっているのかも大切にしたい。

(5) 本単元における授業の実際と考察

① 3年生の社会科の学習について見通しを持つ

社会科の学習に興味をもち 学校の周りの様子に関心をもつことができる

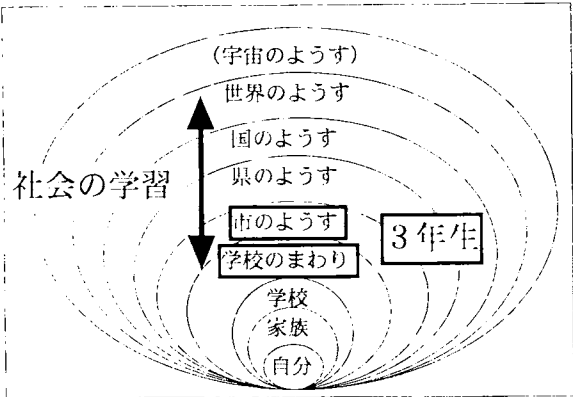


図1 授業の板書

1、2年生の生活科では自分と家族のこと、学校のこと、それに学校の周りのことを少し取り上げてきた。そのことをふまえて3年生で初めて学習する社会科の勉強とはどんなことを取り上げるのかを教科書や副読本の内容を取り上げて説明したり、考えさせたりした。

まず「社会科では、学校の周りの様子から勉強を始めるよ」と伝え、「次は市のことだね」や「市の次は県だ」「国だ、地球だ、宇宙だ」と子どもは次々と自分の周りの世界を広げていった。その中で、3年生では、学校の周りのことと市の様子について学習していくことを話した。

こうすることで、これから始まる1年間の社会科の学習に見通しを持たせることができた。もち

ろん、3年生がどれくらい見通しを持てるのかは疑問が残る。しかし「学校の周りのどんなことを調べるのだろう」「ぼくたちが住んでいるのは金沢市だよ」などのように思いを出してくれる子もいて、これから楽しみに社会科の学習に取り組んでいけそうであった。

② 学校の周りの様子について発表する

学校の周りの様子について想起し 探検したいという意欲をもつことができる

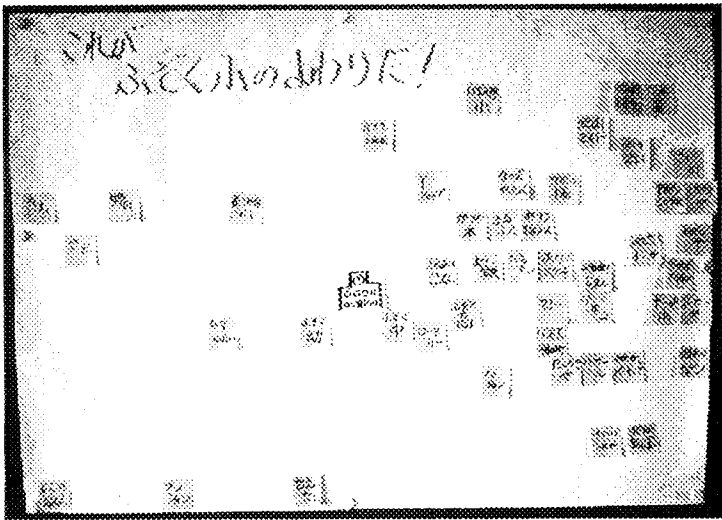


写真1 想起した学校の周りの建物

まず、学校の周りにはどんなものがあるのかを聞いてみた。バスで通学している子は、バスから見える景色を中心に答えていた。また、裏門を通り徒歩で通学している子は、歩く途中で見かける景色が中心になった。出てきたものは、表1の通りである。

店	16	自然	3
学校	8	マンション	2
バス停	4	病院	2
公園	4	その他	6

表1 想起した学校の周りの建物

それらを学校を中心とした地図にまとめたのが上の写真1である。この地図をまとめていく過程では、一つの建物の場所を何人もの子が、違う場所においていた。しかしそのことで「もう少し右の方だよ」「いや、上の方だよ」とお互いの意見を聞きながら自分の意見を出し合う場が出てきた。また「市立病院のとなりにあるよ」や「アルコの後ろに平和町グランドがあるよ」などと今までに出た建物と場所を生かして発表する姿も見られた。この姿は、回数を重ねることでお互いの意見を気をつけて聞くようになり、このあとお互いに教え合うことの意味につながっていく

ことになるであろう。

こうして自分たちのはっきりとしないものをどうするかということになった。子どもからは「生活科の時のように探検したい」という意見が出てきた。「地図でも調べられるよ」という意見も出たが、「実際に見て確かめた方がはっきりするよ」ということになり「探検して、しっかりと見てきたい」という意欲につながるようになった。

③ 学校の周りの探検に行く（1回目）

学校の周りの様子についての自分の思いをもち さらにくわしく調べようとする意欲をもつことができる



写真2 全員でまとまって出かけた1回目の探検



写真3 相談しながら記入している様子

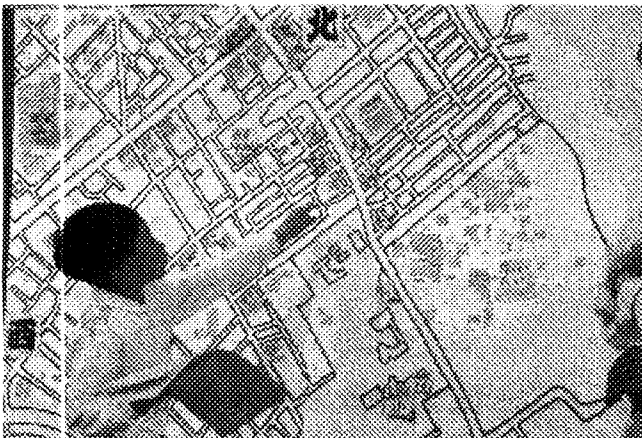


写真4 地図にまとめている様子

学校の周りの様子がはっきりとしないので、実際に見に行くことになったが、どう見学したらよいのかが分からない。ここで、初めて地図が必要となった。子どもの中から「全部出ている地図では、調べる意味がないのであまり出ていない地図がいい」という意見が出て、道路だけの地図を利用することになった。そして学校の周りを一回りするコースで見学に出かけることにした。（写真2）

学校正面の大通りでは、大きなスーパーや病院、商店が並んでおり、何カ所かで立ち止まりながら目立つ建物の位置と名前を地図に記入していった。学校裏の細い通りの大きなマンションやアパート、公園や神社などを地図に記入していた。

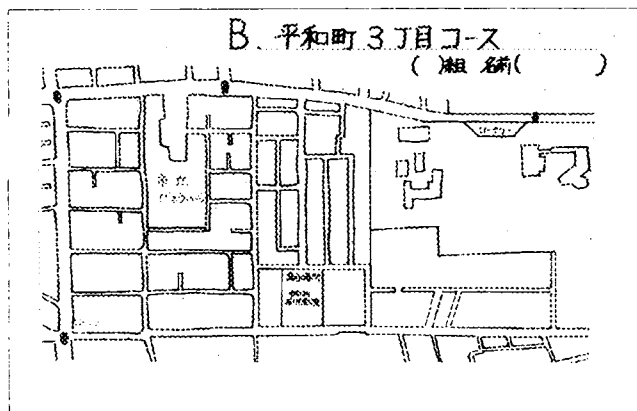
その中で、自分が今いる場所がわからない子も何人か出てきた。その時には、場所がわかる子がさっと教えてあげる様子が見られた。また、どこに記入したらよいかわからない子もいたが、ここでもわかっている子が自分の地図を見ながら教え合い、建物や様子を記入している姿が見られた。（写真3）このように、探検という活動は、子ども達に互いに教え合う意味を自然にわからせてくれるのである。

いよいよ、それぞれのが見てきてわかったことを発表し合い、一枚の大きな地図に仕上げていくことになった。発表が始まると「まちがえたらこまるよ」という意見が出た。しかし「でも書かないと分からないよ」「他の紙に書いておいたら」と意見が出て、とりあえず付箋紙に書いておいて、あとできちんと書いていくことになった。

次に、調べたことに自信がないのかノートを持ってきて、場所を確かめるように発表する子が出てきた。教師からの「間違えないようにノートを持ってきてすてきだね」という発言で安心できたようである。その後、ノートを持って出る子が他にも見られるようになった。（写真4）

1回目の探検では、学校の周りの大まかな建物しか見つけることができなかったのも、さらにくわしく見る必要が出てきた。その時に「グループに分かれて別々の場所を見てき

たらいい」「あとでそれをみんなで合わせたら地図が出来上がるよ」という意見が出た。他の子



資料1 グループでの探検に使用した地図



写真5 グループに分かれて出かけた2回目の探検

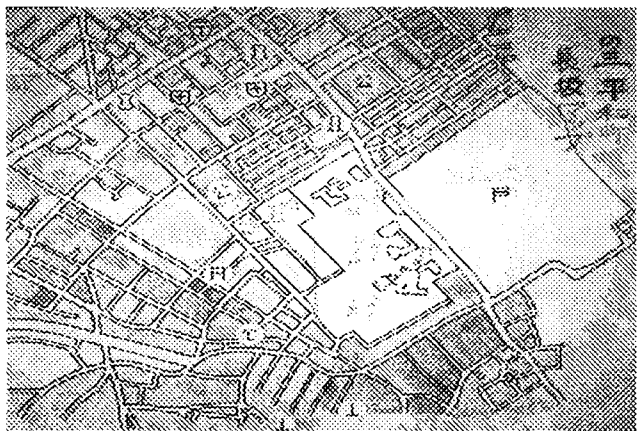


写真6 完成した地図

もそれに賛成したので、グループに分かれての2回目の探検をすることにした。

④ 学校のまわりの探検に行く(2回目)

学校の周りの様子についてグループに分かれ 探検することができる

学校の周りを4つに分け、自分の調べたい方面を選んでグループを作った。1回目の探検では教師がコースを決めたが、今回は子どもだけで探検させることにした。

その際、自分が探検する方面を拡大した地図(資料1)を用意した。子どもは、グループごとに見た建物や土地の様子を地図に記入していった。その際には、グループで役割分担をしたり、自然に教え合ったりして調べる姿が見られるようになってきた。(写真5)

⑤ 探検して分かったことを地図にまとめる

学校の周りの様子について探検してきたことを大きな地図にまとめることができる

まとめる作業は、まず大きな建物の場所を決め、名前をはっきりとさせた。次に住宅をピンクに、田や畑などを緑に、店を黄色にと大まかに色を塗っていく。大きな地図だがクラス全員が一度には塗れないので交替しながら塗っていった。

建物の場所や、家だったのか店だったのかなどあいまいな部分もあったが、同じ方面を探検した子同士で相談し教え合いながら作業を進めていった。どうしてもはっきりとしない部分や、調べることができなかった部分については、放課後などを利用してさらに調べることにした。

さらに、地図を分かりやすくまとめるために地図記号があることを教え、様々な地図記号について学習した。そして、地図記号を使って学校の周りの地図を完成させていった。(写真6)

⑥ 学校の周りの様子をまとめる

学校の周りの様子について大きな地図を見ながら 自分なりの思いを持つことができる

まず、完成した地図を見て思ったことや考えたことなどを発表し合った。子どもは、まず色に着目して「家が多い」や「自然がたくさんある」等の意見が出てきた。地図上のバラバラな様子が発表されていく中で、ある子が「地図にも東西南北があるよ」と発言した。そこから、学校の周りの様子も、東西南北にわけて考えることになった。

まず東から見ていくことにした。「東は自えいたいしかない」「自えいたいってすごく広いんだ」という意見が多くでた。そして「学校よりも広い」という意見も出て、東の方は自えたいの敷地が大変大きく広がっていることに改めて気づくことができた。西は「家がたくさんあるよ」「マンションもあったよ」「畑もあったよ」という意見と「家のまん中に畑がある」という意見が出た。実際に探検した子からも「古い家(農家)もあって、その横が畑になっていた」「竹林もあったよ」という意見も出された。ここで、家やマンションと畑はどちらが前にあったのだろうということになった。家やマンションが畑に変わったのか、畑が家やマンションに変

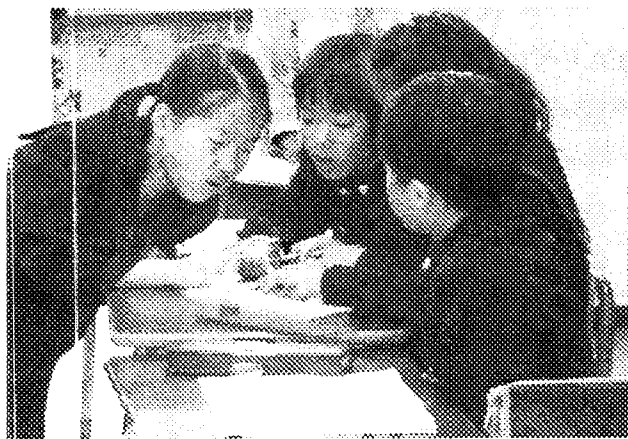


写真7 教え合いながら考えている様子

う」や「学校のまわりの地図なので学校のまわりマップがいい」「大きな地図になったのでビッグマップにしよう」など、自分たちで完成させた地図ならではの思いがこもった名前がたくさん出てきた。その中から「三の三、平和町長坂マップ」という名前に決まった。この名前には、3組が作ったということと、主に平和町と長坂のことが描かれているという意味がある。

わったのかということである。ここでは、教師から畑の方が前にあったのだという答えを聞いて納得していたが、学校の周りの昔の様子にまで興味を持つ子が出てきた。

南は「家や畑だけでなく、墓がある」「野田山もあるよ」という意見が出た。北は「店がかたまってたたくさんあるよ」「道路から入ったところに家やアパートがたくさんあるよ」という意見が出た。その話し合いの中で「家がたくさんあるから店で買う人も多いんだ」という関係にも気づくことができた。また、「西や南と比べたら、自然が少ないね」のように、他と比べて考える子も出てくるようになってきた。

その後、この地図に名前を付けた。「家やアパートが多かったから家・アパート地図にしよ

(6) 単元を終えて

教室の規範については、社会科以外の様々な場面でも育ててきた。この単元の学習を通して、調べたことや知っていることを持ち寄り、教え合って協力することで大きな地図を作ることができた。そして、これからも学習を重ねていくことで教え合うことの意味に少しずつ気づくことができるようになっていくと考えている。

たとえば、想起の時点では、学校の表の方しか知らず、店のことしか書けなかったが、だんだんと他のものもあることに気づき、最後には、自分の家の周りとは比べることができるようになったA児のような子も出てきている。

さらに、建物だけでなく人の消費生活や生産活動にも目を向けて思いを書くことができるようになったB児。町づくりという面から店と家の関係について想いを寄せるC児。このように学校の周りの様子がわかるだけでなく、町の様子（人の営み）の裏にある思いや考えをたどることができつつあるように思われる。（資料2）

A児 (想起の時点)	学校のまわりにはお店がいっぱいあると思う
(探検後)	うらもんのほうもお店がいろいろあると思ったけど一けんやなどが多かったです
(学番後)	学校の周りには、ぼくの家まわりにはないものがたくさんありました
B児 (探検後)	平和町はお店がいっぱいあると思っていたけど、じゅうたくばかりでお店は中にはあまりなかったの、中にすんでいる人は、パズールやアルコでひつような物を買っていくのだと思いました。
C児 (探検後)	大通りはお店がたくさんあって、中の細い道はぜんぜんお店はありませんでした。だからわたしは、この町の所は人が見やすいように作ったんだと思いました。

資料2 ノートのふり返しからの抜粋

(7) 今後の課題

この単元は、4月という早い時期からスタートしている。それで、はじめの方はなかなか「教え合う」ことや「比べて考える」ことはうまくいかなかったが、規範を意識して取り組んでくることで、少しずつ「教え合う」ことや「比べて考える」ことができるようになってきた。もちろん、まだまだ不十分な点が多いので、2学期の単元でもしっかりと身につけることができるようにしていきたい。

また「教え合う」と「比べて考える」という規範は、この単元を進めていく中では、重要な役割を果たしており、とても大切であると子どもが気づくことができた。ただ、中学年という段階を考えた時には、さらに別の規範も必要になるかも知れないので、規範についてはさらによりよいものを求めて実践していく必要があるかも知れない。

そして、社会科の集団で学ぶよさである「人の営みにある思いや考えをたどることができること」を実感させていくことに、規範がしっかりとかわっていけるように2学期以降も研究を深めていきたい。